

事務の機能改革を求めて —MAPPER ONLINE SYSTEMの導入—

Introduction of Mapper Online System

川田工業㈱・総務部

1. まえがき

川田工業グループにおいては、激変する将来に向けて未来戦略を強力に展開するため「中期経営計画」を策定しGROW-UP運動を進めている。その目標実現のためには本運動の推進力となる「経営の活性化・合理化」が着実に実行されなければならない。

さて、一般的な傾向であるオフィス業務の生産性向上は直接生産部門に比べ総体的に遅れているといわれ、また高度成長期以来管理（間接）部門の人員が増大したことなどから、事務管理部門等における経費の増高を招いているばかりか経営全体の効率向上のネックとなっている嫌いさもある。したがってオフィス業務を見直し、ムダを省き機械化を進めることが急務となっている。

2. 機能化を計るオフィスオートメーションの推進

経営情報の一元化を計り効率的な経営活動を実践するため、GROW-UP運動では「事務作業の標準化・機械化」を進めて最適な業務形態を形成し事務コストを削減すること、また「総合的な経営情報管理システムを構築」し経営全般に関する諸情報を適時適切に提供してトップの意志決定が円滑に行うことができること、など経営全般の生産性を高めるためのOAを推進することにより、総合的な効果としてオフィスにおける生産性20%向上を目指している。

ここでいう「総合的な経営情報管理システムの構築」については、次のよう構想を描いている。

◇目標

- (1) 経営全般の業績測定と評価
- (2) 計画・目標等の実績または予測のシミュレーションによる効率経営の推進
- (3) 経営情報の即時提供態勢の確立
- (4) 情報提供様式の漢字化・図形化・色彩化の完成
- (5) 全社ネットワークの構築

◇構築システム（予定の例示）

- (1) 人事労務情報（社員履歴・家族状況・就労状況・給与・要員・人事等）
- (2) 営業情報（受注物件・見込物件・販売諸経費

・入金管理等）

- (3) 生産施工情報（実行予算・進捗状況・工場別施工部門別採算状況・損益分岐点状況等）
- (4) 財務会計情報（顧客・工事・材料発注・取引先支払・手形・財務・在庫・月次業務等の管理）
- (5) 経営管理情報（経営分析・経営計画・投資・外部情報・各部門評価等）

以上各情報を網羅し、各部門ではそれぞれに設置したターミナルより諸データをキーインすることで、従来に比べ質量とも充実した管理情報を自在に出力し得るネットワークシステムを作り上げる計画である。

3. 事務機能の効率化とMAPPERオンラインシステム

一般的に管理事務においては、少種大量のデータを機械力にものをいわせて処理するという形より、多種少量のデータを如何に効率よく組み合わせて処理するかという形の方の比重が高く、また処理結果の出力形態も常に一定であるとは限らない。従って従来のバッチ処理では管理事務の対応に限度があったがこれを少なからず解消すると思われるのが会話型処理機能とデータベース機構である。機能的なデータベースが構築されれば会話型処理によってそれぞれのデータを有機的に結合することが比較的容易になり非定形的な事務作業への対応も大幅に改善される。即ち管理事務業務の改革には機能的なデータベースを如何に構築するかということ及び会話型処理機能の導入が必要な訳である。

◇ MAPPERの機能の紹介

(Maintaing Preparing and Producing
Executive Reports)

当社では多種多様な情報処理ニーズにフレキシブルな対応能力を持つソフトウェアであるMAPPERを選択したが以下簡単に主要機能を紹介する。

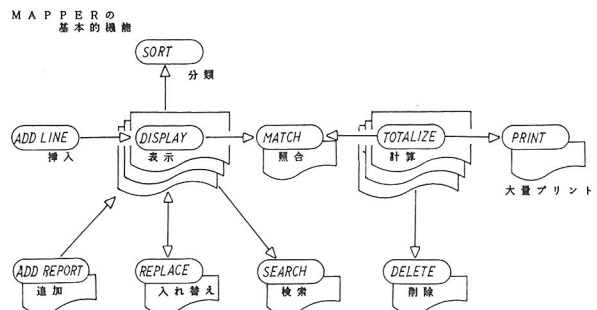


図-1

MAPPERは使用者が容易にコンピュータを駆使できるよう設計されたオンライン・レポート処理システムであり、簡易言語機能と簡易リアルタイム・パッケージとしての機能を持つ第4世代ソフトウェアである。

(1) 問い合わせ機能

データベースに格納されたレポートやデータを検索・分類・照合し、かつその結果によりレポートやデータを更新することが可能。

(2) 更新機能

レポート及びデータの追加・更新・削除・複写をデータ個々またはレポート単位で一括して実行する。また、MAPPER以外(1100 OSで稼動するバッチ・リアル・デマンド処理)で作成されたSDFファイルとのデータ受授も可能。

(3) 計算機能

レポート内の数値データ・日付データに対し四則演算・日数計算を行う。また、FORTRANをベースとした算術計算機としての機能を持つ。

(4) 通信機能

端末間のメッセージ受授及びレポート転送やそれらのオンサイト印書装置への出力が可能。

(5) グラフ機能

レポート内の数値データをグラフ化してディスプレイに表示やオンサイト印書装置への出力が可能。

(6) MAPPERラン機能

会話型の処理形態で複雑な処理や定形的な処理を繰返し行う場合、その一連の処理を登録し(これをランと呼ぶ)必要時に必要なランを呼び出して一連の処理を一括

して実行処理することが可能。

その他、事務系業務に不可欠な漢字処理機能を装備する事はいうまでもなく、簡易言語である強みとしてはFORTRAN, COBOLなど高級言語に比べ習得が容易であり、またアプリケーション開発業務の生産性を飛躍的に向上させるなど事務系電算技術者の少ない当グループには正に期待できるツールと言えよう。

◇ MAPPERオンラインシステムの構想

このように事務の機械化を計ることのできるMAPPERを導入し、近い将来には各工場・本社・支社間ではMAPPERターミナル(UTS-50)により、また本支社・営業所間ではパーソナルコンピュータ(UP10E)によるオンラインネットワーク網を完備して相互の各種情報流通を円滑にし事務改革を推進したいと考えている。

4. MAPPER オンラインシステムの稼動

この59年9月より営業部門の事務業務にMAPPERによるオンラインシステムを実用開始することとなった。今稼動する営業情報管理システムは、DRESSシステムによる受注集計業務について、初期データ入力をMAPPERデータベース側に変更すると共に入力データ項目も多少追加したもので、受注集計から営業業績効率の分析に至るまでの種々の集計・統計・分析等の業務を一貫してタイムリーに実行できることとなった。このような事務改革は営業部門における主命である「シェアの拡大」「受注効率の向上」などに対して、新たなインパクトを与え効率的な業務推進に寄与するものと思われる。

システム開発ツールとしての
MAPPERの効率性

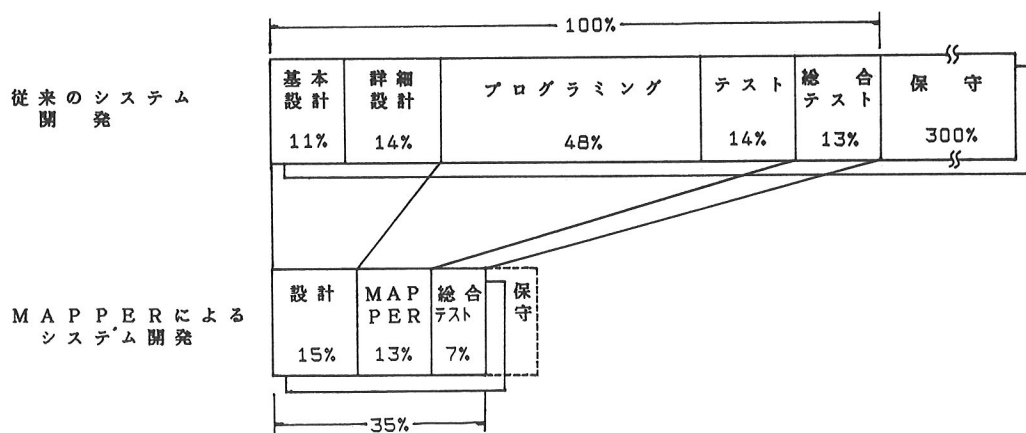


図-2